

## 「公共事業が急拡大すると人手不足を移民に頼るのでは？」

平成 26 年 12 月 16 日

### ●トップハンデさんからの質問

景気減速が騒がれる今日この頃、西田氏は需要不足を補う公共投資を推進する立場かと思えます、その考えに私も賛同します。ただ、それをする為のマンパワーは、官民共に足りているのでしょうか？そのマンパワーが不足しているのでは、震災復興も前進しないのではないのでしょうか？小泉竹中改革を反省するべきではないのでしょうか？急速にやろうとすると、また、移民政策論者が元気になってしまいます。身の丈に合った公共投資をお願いします。20年続いたデフレは2年やそこらで回復するものではないと思います。劇薬は不要です。西田氏の見解をお願いします。

### ●西田昌司の答え

マンパワー不足であることは否めない事実ですが、「足りない分は外国人労働者を受け入れればいいのか」と簡単に考える人たちについては非常に嘆かわしく思っています。

移民推進論者には、何十万人、何百万人と外国人労働者を受け入れたら一体どうなるのかについて真剣に考えてもらわねばなりません。例えば、外国人の福祉・教育をどのように日本は負担するのでしょうか。また、生活様式・文化・言語の異なる人々が同じ国に住むとなると、様々な軋轢を生じて治安も当然悪くなるわけで、日本が国柄をも変えられてしまう程の莫大なコストを支払う羽目に陥るのは、世界中の移民政策の失敗例を見ると今や明らかです。

移民政策に失敗したドイツの例を見てみましょう。ベルリンの壁崩壊以

前、西ドイツはヨーロッパ各地やトルコから移民を受け入れました。キリスト教徒であるドイツ人と、イスラム教徒であるトルコ人とでは宗教・生活様式・文化・言語が全く異なるのですが、それらの人々が一つの国の中で暮らすと当然ながら大変な軋轢を生じるわけです。ベルリンの壁が崩壊してからは、東ドイツ側から西ドイツ側へドイツ人労働者が職を求めて流入しましたが、東ドイツ側労働者からするとトルコ人を始めとした外国人労働者は「ドイツ人から職を奪う、目の上の瘤」として映るわけで、「ネオナチ」と呼ばれる外国人排斥を訴える人々が台頭して外国人が襲撃される事件も発生しています。

移民の必要性が叫ばれる背景には少子化の問題があるのですが、少子化がもたらす事態に対処すべく策を練るのではなく、なぜ少子化になってしまったのかの考察をして、少子化の原因を取り除いて少子化を食い止めるという根本的な解決を目指さなければなりません。私は、少子化の一つの原因として、優生保護法による人口中絶の合法化があると思います。

戦後、（これまで伏せられてきましたが）連合軍の将兵による性犯罪が日本国内で大量に発生した事実があり、その結果として望まざる子供を孕んだ女性が不幸にも出てきてしまいました。そのままそのような子供を産んでしまうと大変なことになる、ということで優生保護法が施行されたのですが、当時は貧しかったせいもあり、その後すぐに法が改正されて「経済的理由」による中絶も認められ、中絶数が激増しました。

昭和 30 年代、生まれた子供は年間約 160 万人に対して、墮胎された子供は年間約 100 万人であり、2.6 人に 1 人は殺されていたことになります。この当時、「このようなことを放置していると将来、人手不足になってとんでもないことになるぞ」という意見が経済界の中から出ていたという資料を私は見つけましたが、まさにその懸念が現実となって今の日本に降りかかっているわけです。

現在の日本では、年間約 100 万人が生まれるのに対して、年間約 20 万人

が墮胎されており、殺人が平気で横行していることに我々は戦慄すべきなのですが、一方で、人手が足りないから外国人を入れるなどということも平気で語られているのです。命を大切にせずに人を物のように軽く扱う思考がこのような事態を招いているのですが、その浅はかさゆえに我々は自業自得の報いを受けているとも言えます。

今から人口を増やす努力をしても、これから生まれた人が労働力となるまでには時間がかかりますので、それまでの間、この危機的状況を乗り越えることを考えなければなりません。60歳や65歳で引退した方の中には、まだまだ現役で元気に働ける人が沢山いらっしゃるのですから、働ける高齢者には働いていただくことも大事なことだと思います。安易に移民に頼るのではなく、ここはやはり、日本人が団結して危機を乗り越えなければならないわけですし、なぜこのような事態になったのかについて我々はしっかりと反省をせねばなりません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>